ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）が声高に言われる中、
循環型・低炭素社会の実現の一翼を担うのは、木材 住宅業界です！

株式会社 山西　あすなろ会顧問 代表取締役社長　西 垣　洋 一

1990 年代に加速したグローバリゼーションは世界経済の発展に大きく貢献しましたが、その一方で、気候変動、生息地の消失と劣化、汚染、貧困、格差拡大など多くの地球規模の課題を生み出し、私たちの地球社会は崩壊の危機にさらされています。2015 年国連はこれらの克服に向け、193 の全加盟国の賛同を得て、**「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」**と行動計画目標であるＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals:**持続可能な開発目標**）を採択しました。具体的には、経済・社会・環境の分野にまたがる横断的かつ密接不可分な 17 分野の目標（右図参照）と 169 ターゲット約 230 の指標に基づき、進捗を図りながら推進する取り組みです。現在地球規模で、その達成に向け取り組みが図られています。

日本においては、未来社会のコンセプト Society5.0 の実現を通じてＳＤＧｓへの貢献を目指しています。Society5.0 とは、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く第 5 段階の新たな社会「創造社会」のことです。デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって社会の課題を解決し、価値を創造する社会であり、経済成長だけでなく、社会課題の解決や自然との共生を目指すものです。

翻って私たちの木材 住宅業界では、戦後続いてきた街づくりにおける木材から非木材の流れを変え、木材を優先して活用する社会**“Wood First（ウッドファースト）社会”**の実現に向け、木材の有効利用を推進してきました。又再生可能な資源である木材利用の拡大は、森林・林業の活性化のみならず地球温暖化の防止、地域経済の活性化などを通じ、豊かな暮らしや低炭素社会の実現に大きく貢献するものです。そして「伐って、使って、植えて、育てる」という循環型利用の確立に向け、川上から川下の全ての業界団体の協力体制の構築が進んでいます。

これは、ＳＤＧｓの目標 15「陸の豊かさも守ろう」への直接的な貢献のみならず、様々な他の開発目標にも貢献することになります。木材を有効活用することは、「持続可能な社会の実現」には不可欠と言えるのです。更には森林・林業・木材産業並びに木材のエンドユーザーでもある工務店様を始めとする住宅業界が、正にＳＤＧｓの達成への担い手の一翼であることを意味します。私たちは、そのことを自覚し、誇りと責任を持って未来に向け、一層の木材の有効利用を推し進めなければなりません。

只、その為には下記のような様々な問題・課題を１つ１つ解決して行かなければなりません。

① 疲弊する山元への支援。「伐って、使って、植えて、育てる」という循環型利用の確立には山元の力が必要です。適正な利益が還元される仕組みづくりや、ＡＩや IoT、ロボットを活用した生産体制の構築も必要となります。

② 木材需要の柱であった新設住宅着工数が中長期的な減少が避けられない中、非住宅建築物の木造化・木質化を進め、木材需要の新たな市場を創造することです。その為には、非住宅の木造建築物の建築家の育成も必要です。又木材に興味を持ち、将来、木の研究者などを目指すような人材の育成も大切になります。

当社としましても、自覚と責任を持って今後も国際森林認証制度の適合材の取り扱いを強化、省エネ製品も品揃えを増やして参りますので、変わらぬご愛顧の程お願いします。

2019 年 3 月吉日

図表１　Society5.0 for SDGs

図表２　世界を変えるための 17 の目標